

# 九鬼周造 (くき・しゅうぞう) 1888～1941

哲学者 ～ <いき> を究めた貴族哲学者～

**出生** 1888年(明治21)2月15日東京市芝区芝公園14号地19番地(現・港区芝公園)に駐米特命全権公使、帝国博物館総長等の要職を歴任した男爵九鬼隆一と、京都祇園の出といわれる波津(波津子・初子)との間に、四男として生まれる。

**履歴** 東京帝国大学文科大学哲学科卒業(1912)後、大学院で研究を継続。1921年、大学院を退学しヨーロッパへ留学。ドイツのハイデルベルク、フライブルク、マールブルクの諸大学ではリッケルト、フッサール、ハイデッガー等に師事。フランスのソルボンヌ大学ではベルクソンに師事。1929年帰朝。同年京都帝国大学講師。真新しいフランス現代哲学を紹介し、新風を吹き込んだ。1933年助教授。1935年教授に就任。西洋近世哲学史講座を担当した。

**事績** 父と母と岡倉天心の関係(これについては松本清張著『岡倉天心 その内なる敵』<702.16R/30>に詳しい)は幼少期の九鬼の内面や、その後の生涯と思想に大きな影響をもたらしたと言われている。真と美の本質をストイックに探究する思索家としての魂と、快楽に耽溺することを拒まない柔らかい魂とを兼ね備え、そのあり方を思想的に結晶させたものが『いきの構造』といえる。明星派の歌人でもあり詩作のほか、詩・文学・芸術を哲学的に論じた発表も多数。公私ともに生涯孤高な立場をとり、西田哲学の牙城であった京都帝国大学においても「京都学派」の外に位置し、晩年は孤独であった。京都山科に建築した数奇屋作りの自宅は、設計はもとより細部のデザイン・庭園の樹木にも気を配ったものであったが、ここでの生活は短いまま逝った。

**評価** 日本の粹や風雅を深く体現しながら、8年におよぶヨーロッパ留学の経験から、日本の哲学者として最も西洋を理解した一人と言われる。フランス哲学を学び、留学当時ドイツで生まれたばかりの実存哲学を初めて我が国に紹介し、今日通用しているハイデッガー哲学の「実存」は彼の訳による。ハイデッガーの解釈学に基づいた時間性と偶然性を軸とする、独自の哲学を展開したが、今日では『いきの構造』の著者としての方が名高い。(次頁「参考文献」参照)

## 代表作

『「いき」の構造』 パリ留学中に準備稿が書かれ、帰国後初めての著書として刊行。これまで学問レベルで扱われることの無かった日本の民族的文化「いき」を解釈学的に分析。「いき」とは、「媚態」と「意気地」と「諦め」の3つの契機から成り立っていると理論を展開。有形・無形の江戸の美意識を、詳細かつ多角的に論じている。全集1に収録。

『偶然性の問題』 1930年当時、近代的世界観の動揺と相まって量子力学や生物学で、偶然性が問題にされるようになった時代の中、個体的実存の根底にある偶然性の問題を見据えようと試みた作品である。しかしその意図の背後には、一人の日本人が西洋文化や学問といかに主体的に出会い対峙したか、その経緯も浮かび上がってくる。全集2に収録。

『九鬼周造随筆集』 情趣に満ちた味わい深い随筆家の面を見せてくれる作品集。敬愛していた岡倉天心への思い出、母への慕情のつづられた「根岸」「岡倉覚三氏の思い出」、偶然論を語りながら人生の無常に思いをはせる「青海波」など、発表順に24篇を収録。岩波文庫にあり(1914/ク)。

**レポート** フランス留学時、エコール・ノルマルの学生であったサルトルを家庭教師にフランス哲学を学び、逆に九鬼はサルトルにハイデッガーの哲学を紹介。後にサルトルがハイデッガーを訪問した時、九鬼の書いた紹介状を持参したという逸話がある。

**最期** 1941年(昭和16)5月6日、ガン性腹膜炎のため京都府立医大付属病院で死去。享年53歳。



## Great Works 23

### 九鬼周造全集 全12巻 岩波書店 1980～1982年 <121.9/118>

**解題** 九鬼死後、愛蔵の書籍と学問的全資料などの遺品は、遺言により一校以来の親友であり、京都帝国大学の同僚であった天野貞祐に寄託された。当時、京大退任後に旧制甲南高等学校校長に赴任が決まっていた天野によって、これらの蔵書と資料は九鬼周造文庫として、現甲南大学哲学研究室の所蔵となった。この学問的資料は、既刊・未完の著作草稿のほか一校・東大の学生時代の筆記ノート、教授になってからの講義・研究ノート、詩歌の習作ノート等九鬼の人と学問を知る一切が遺されてお

り、「九鬼周造文庫目録」が甲南大学より編集刊行されている。全集はこの資料を基に全業績を編集している。

#### 内容

- 1 「いき」の構造 [ 初出『思想』92号・93号 1930年 同年、岩波書店より単行本刊行 ] 「いき」の本質 [ 『「いき」の構造』準備稿といえる作品。パリ滞在中の1926年(38歳)書き上げている ] 巴里心景 [ 甲鳥書林 1942年 初出は雑誌『明星』パリ滞在中にS・K、小森鹿三のペンネームで発表した詩歌集 ] 滞欧中小品 [ 1928年 遊学より帰国の船中にて書かれた小論文 ] 他
- 2 偶然性の問題 [ 岩波書店 1935年 ] 【論文】偶然性 [ 文学博士学位論文の他、大谷大学講演原稿等未発表の論考を含め4点を収録 ]
- 3 人間と実存 [ 岩波書店 1939年 ] 【論文】時間の問題 ヘルクソンとハイデッガー [ 1929年、『哲学雑誌』発表論文 ] 文学の時間性 [ 1936年 講演録 ] 他
- 4 文芸論 [ 1941年 岩波書店 雑誌発表の5編の論文からなり死の直前に完成、中井正一の協力により単行本として死後刊行された ]
- 5 をりにふれて(遠里丹婦麗天) [ 1941年 岩波書店 遺稿集として刊行された随筆集 ] 未発表随筆 [ 随筆16編 アンケートへの回答6篇 ] 押印論 [ 1930年から1931年に発表の論文 ]
- 6・7 西洋近世哲学史稿 上・下 [ 岩波書店 上巻1944年、下巻1948年 京都帝国大学の教授として哲学・哲学史第4講座を担当した講義ノートを天野貞祐等が編集。 ]
- 8 現代フランス哲学講義 [ 1957年 岩波書店 講師・助教授時代の講義録を、教え子の澤潟久敬が単行本に纏めた ]
- 9 【講義録】現代哲学 [ 1939年 ] 現代哲学の動向 [ 1937年 ] 他
- 10 【講義録】Heideggerの現象学的存在論 [ 1931-1932年度の特講義録他 ] 他
- 11 【講義録】文学概論 [ 1933年 ] 偶然性 [ 1930年 ] 他
- 12 別巻(資料編) [ 著者の思想の形成過程を窺わせる資料8点を収録。 ] 「いき」について 詩歌 文学概論研究他 年譜

### 参考文献 ~この人をもっと知るために~

#### <図書>

- 📖 九鬼周造 偶然と自然 / 田中久文著  
ペリかん社 1992年 247p <121.6AA / 125> 資料番号 20513776
- 📖 不在の歌 九鬼周造の世界 / 坂部恵著  
TBSブリタニカ 1990年 208p <121.6Z / 108> 資料番号 20270633
- 📖 『「いき」の構造』を読む(朝日選書 132) / 安田武・多田道太郎著  
朝日新聞社 1979年 216p <701.1 / 162> 資料番号 20605648

#### <図書(部分)>

- 📖 九鬼周造 邂逅の論理 / 木岡伸夫著(日本の哲学を学ぶ人のために)  
世界思想社 1998年 p123-154 <121.6GG / 147> 資料番号 21043740
- 📖 実存の哲学 九鬼周造 / 谷口静浩著(日本近代思想を学ぶ人のために)  
世界思想社 1997年 p152-169 <121.6MM / 180> 資料番号 21582267
- 📖 九鬼周造 / 中埜肇著(言論は日本を動かす 第2巻)  
講談社 1986年 p123-150 <281T / 122 / 2> 資料番号 12357166
- 📖 一高の思ひ出 九鬼君のこと 九鬼・岩下両君のことなど / 天野貞祐著(天野貞祐著作集 4)  
塙書房 1960年 p53-84、89-105 <121.9 / 33 / 4> 資料番号 10200434

#### <雑誌論文>

- 📖 九鬼周造における知性の祝祭 / 磯谷孝著  
思想(岩波書店)通号653 [1978] <Z051 / 5>
- 📖 言語としての九鬼周造 / 磯谷孝著  
思想(岩波書店)通号668-669 [1980] <Z051 / 5>
- 📖 九鬼哲学における形而上学的実存の問題 / 藤中正義著  
思想(岩波書店)通号668 [1980] <Z051 / 5>
- 📖 九鬼周造における詩と哲学 / 大野圭一郎著  
思想(岩波書店)通号668 [1980] <Z051 / 5>
- 📖 九鬼哲学と偶然性 / 下店栄一著  
思想(岩波書店)通号669 [1980] <Z051 / 5>